

キャンドルのかんづめ

ミツロウキャンドル
てづくりセット

Canned
Candle
Craft



FIRESIDE

だれでも
簡単!

自然素材に
ふれる
心地よさ

ゆったりした
ひと時が
詰まっています

はじめてでも簡単 用意するのは小さなナベひとつ

まずは缶のラベルを開いて説明を読みながら、ディッピングという方法でミツロウキャンドルをつくってみましょう。シンプルですが、一番おすすめのつくりかたです。

セットの素材以外に必要なのは、湯せん用の小さな鍋が一つだけです。

心地よいひととき 自然素材の香り、色、手ざわり

オーストラリア産のビュアナミツロウをたっぷり用意しました。自然素材ミツロウの香り、色、手ざわりを楽しみながらゆったりとした心地よいひとときをすごしてください。

皆で、子どもたちといっしょに、あるいは、ひとりで…。つくる楽しさはさまざまです。



ディッピングで



型に流し込んで



容器に流し込んで

製造元：ワイルドツリー

材質：ミツロウ 200g、ミツロウねんど約 6g / ミツロウ・顔料 (ミツロウクレヨン)
灯芯用綿糸 / 綿 100% (日本製)



FIRESIDE

ファイヤーサイド株式会社

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 497-871

<https://www.firesidestove.com>

缶のラベルが「キャンドルのつくりかた」取扱説明書になっています

90105



セット内容

※ 写真と形状が異なる場合があります。

- ・ミツロウ約 200g
- ・灯芯用綿糸
- ・飾り用ミツロウねんど
- ・シリコンカップ 2 種
- ・ティールイト型



ご用意いただく物

- ・小ぶりなナベ (湯せん用)
- ・タイル、段ボール、まな板など (下敷)

本紙裏面に掲載の「型に流しこむ」で制作する場合
・型枠や容器
・オープンシート

人間が火を使うようになってから
いちばん最初につくりだした"あかり"は
ミツバチの"巣"をとかして つくった
ミツロウキャンドルだった といわれています

ミツロウキャンドルのあかりはそれから
5000年ものあいだ変わらずに 灯されつづけてきました
ミツバチと森 そして それを守る人びと
その環の中から つくりだされるあかりです

ミツロウに触れ キャンドルをつくり
あかりを灯す ひとときに感じる
"ほんとうのじかん"の流れ

1秒・1分・1時間ときざまれ 通りすぎ 消えていく 時間ではなく
草や木がそだっていく時間 子どもたちがすごす育つ時間
四季の自然のうつろい 地球の自転
地球上の 遠くはなれただれかと いっしょにすごしている 時間
それらとつながる自分
そんな いのちのつながりとしての 過去や未来

ミツロウキャンドルをつくり 灯すとき
なぜか そんな時間が流れはじめます

ミツロウキャンドル いのちの循環をあらわすともし火

現在ほとんどのキャンドルは、石油製品の
パラフィンでつくられています。しかし、
もともと西洋や中国ではミツロウ、日本では
燭 (はぜ) や漆などから採れる木ロウでキャ
ンドル (ろうそく) はつくられていました。

エジプトやクレタでは紀元前 3000 年ころ
からミツロウキャンドルがつくられていま
す。中世ヨーロッパでは教会の儀式用に使
われ、つねに貴重品「神からの贈り物」と
して使われてきました。今も「キャンドルの
女王」といわれるゆえんです。

たとえば、ローマカトリックの教会では
バスカルと呼ばれるキャンドルが灯されてい
ました。イースター (復活祭) 前の木曜日に
教会のあかりは全て消され、イースター前
日に聖なるあかりが灯されます。復活祭の
起源の一つは、春の訪れ=いのちの再生を
祝う祭りとも言
われます。キャ
ンドルのともし火
がいのちの再生・循環を象
徴していたのです。



ミツロウ ミツバチの巣 (ハニカム) の材料

ミツロウ (ビーズワックス) とは、ミツ
バチが巣をつくるために、花のミツを材
料にして体のなかでつくりだすロウのこと
です。

ミツバチが花のミツを体のなかでハチミツに
つくりかえているときに、おなかの方 (ロウキ
ョウ) からはロウがでてきます。ミツバチ
はこのロウを口に入れて、さらに 20 分
くらいかみつけてミツロウにします。そし
てミツバチたちは、触角を定規にしては
かりながらあのキレイな六角形の巣 (ハ
ニカム) をつくっていきます。

1 kg のミツロウをつくりだすためにミツ
バチたちが飛ぶ距離をたすと、地球 8 周
(32 万 km) になります。別の方をす
れば、このセットに入っている約 200g の
ミツロウのために、養蜂用の巣箱 1 箱に
すむ 2 万 ~ 2 千匹のミツバチが 2 週間働
いてくれたことになりました。



オーストラリアのミツロウ ユーカリの森のしずく

そんな貴重なミツロウを採ってしまっ
て大丈夫? 実は人間とミツバチはもちつも
たれつの関係といえます。

ビーズキーパー (養蜂職人) は、常
にミツバチの巣箱の中を清潔に保ち、通
風を良くしてミツバチの健康を損ねない
ようにします。このために、巣箱のフタや
枠などにつくられたよぶんな巣 (=ミツロ
ウ) を採るのです。

本セットには、オーストラリアのミツロ
ウキャンドルメーカー、ノーザンライト社
がビーズキーパーたちに頼んで集めたた
てもビュアナミツロウが入っています。オ
ーストラリアのビーズキーパーたちはひと
りで 3000 箱もの巣箱 (コロニー) を管理
しています。ミツバチのコロニーは、一
匹の女王蜂を頂点に 2 万 ~ 4 万匹で構
成されています。つまり、ひとりのビーズ
キーパーが数万匹のミツバチたちと共に
働いているのです。ひとつぶのミツロウ
には、ビーズキーパーとミツバチの営み、
ユーカリの森、森を育てた大地・太陽・
雨・風が凝縮しているのです。

ミツロウキャンドルをつくらう いろんなやりかたで何度でも

ではさっそくキャンドルづくりをはじ
めましょう。説明を読みながら、いろい
ろなつくりかたを試してみましょう。

気に入らなければ溶かして何度でもチ
ャレンジできます。火を灯して燃え残
ったミツロウも、またキャンドルに生まれ
変わります。

ひとりひとり、それぞれの、オリジナル
のキャンドルができあがったら火を灯し
てみましょう。ミツロウキャンドルの暖かな
オレンジ色の炎が、穏やかな落ち着いた
空間とひと時をプレゼントしてくれます。



ミツロウ キャンドルの つくりかた

△注意

・やけどに注意

溶けたミツロウやカンは大変熱いので、やけどにご注意ください。作業中は、耐熱グローブを着用してください。

・手元に注意

溶けたミツロウが付着したカンや器具は滑りやすいのでご注意ください。また、カンのフチで指にけがをしないようにご注意ください。

・子どもは大人といっしょに

・ミツロウの温度に注意

ミツロウは62-63°Cで溶けます。120°Cを超えると一気に気化し危険です。直火では溶かさないてください。湯せんするのはこのためです。

準備

ミツロウを溶かす

- ① セットのカンからミツロウ以外をとり出します。
- ② 小ぶりのナベに2~3cmの深さまで水を入れてください。
※ 水を入れすぎるとカンが浮いて、倒れる恐れがあります
- ③ ミツロウが100°C以上にならないようにするため、カンをそのままナベに入れ湯せんします。



必ず湯せんして溶かします

をそのままナベに入れ湯せんします。
全て溶かして液体化させてください。
ミツロウが溶けるまで側を離れないでください。

準備…灯芯をつくる

- ① 綿糸のはじを持ち、溶けたミツロウに浸す
- ② 糸をひき上げ、まっすぐに伸ばす。※ 熱いので注意



- ③ 最初に持っていた糸のはじもミツロウに浸す。
灯芯はタコ糸(綿糸)やヘンプ糸などでも制作できます。糸の太さで炎の大きさが変わるので、直径の大きなキャンドルを作る時は太めの糸を使ってください。

おすすめのシンプルな作り方

01

ディッピング

溶けたミツロウに灯芯を浸けては出して固め、年輪のように太らせていく方法です。



作り方

- ① 灯芯をカンの高さより2~3cm長く切る。
- ② 溶けたミツロウが入ったカンをナベからとり出し、平らで断熱性のある下敷(タイル・段ボール・まな板など)に置く。
- ③ 灯芯のはじを持ち、溶けたミツロウに浸し、すばやく引き上げ、表面が白っぽく固まるまで待つ。
- ④ ③~④の工程を繰り返す。
- ⑤ ある程度の太さになったら、下敷きにキャンドルの底を優しくトントンとあてて平らにする。
- ⑥ ③~⑤を繰り返し、好きな形、太さになったら完成。途中でカンのミツロウが白く固まりだしたら、再度湯せんする。



浸す時はすばやく。サッとつけてサッと出す。



引き上げた後表面が白っぽく固まるまで待つ。



漬けすぎると、一度ついたミツロウが溶けてしまいます。



このくらいの太さになったら、キャンドルの底を平らにする。(左)
気に入った太さになったら完成。(右)

〈作り方のヒント〉

- ・湯せんに卓上コンロを用いるなどミツロウの温度調整ができる場合、カンをナベに入れたまま数人で同時に作ることもできます。
- ・最初は太くなりづらいですが、一旦太りだすと表面積が増えるため、たちまち大きくなります。
- ・表面が滑らかなキャンドルを作るには70°Cくらいが適切です。温度が高いほどゆっくりに太くなります。
- ・キャンドルは下にも伸びるため根元に灯芯が入っていないことがあります。



思い通りの形、同じ形で作る

02

型に流し込む

いろいろな型をつかい、ミツロウを流し込み思い通りの形のキャンドルをつくります。

作り方

- ① 型を用意する。
- ② 灯芯を型の高さより2~3cm長く切る。
- ③ 料理用バットや紙箱など底の平らな容器にオープンシートを敷き、型をおく。
- ④ 灯芯を割り箸にはさみ、型の上にセットする。
- ⑤ 溶けたミツロウが入ったカンをナベからとり出し、一呼吸吸おいてから型の底にいきわたる程度に少し流し込む。
- ⑥ ミツロウの表面が白くなり出したら、残りのミツロウを注ぐ。
- ⑦ 完全に冷え、型とミツロウの間にすき間ができたなら、取り出す。



新しい割り箸なら割らずにそのまま芯をはさみ、古いものはさんでから輪ゴムでとめる。



流し込みには注ぎ口のある容器や、飲み口を1か所つぶした紙コップなどを使うと便利。

〈型いろいろ〉

- ・クッキー型
- ・紙筒(ラップなどの芯)
- ・びん、カン(流し込み用)
- ・牛乳パックなどの紙パック
- ・オープンシート

牛乳パックやオープンシートを折ったり切り貼りして複雑な形の型をつくることもできます。その場合は、継ぎ目をガムテープなどでしっかり止めます。



化粧クリームのビンに流し込んだもの。(手前)
オープンシートを丸めた型に、着色したミツロウを順番に流し込んだもの。(奥)



／ もっと楽しく! ／

ミツロウねんどで飾る

① セットのミツロウ粘土で飾りをつける

セットには「赤・青・黄」3色のミツロウねんどが入っています。まぜ合わせると、さまざまな色ができます。

ねんど遊びのように好きな模様や飾りをつけて、キャンドルに貼り付ければカラフルで楽しいキャンドルになります。溶かしたミツロウに十分な余裕がある場合、飾り付けたキャンドルを一度浸すと、飾りが外れないようにコーティングできます。

2色の配合。3色まぜれば、暗い色にもなる



② キャンドル本体に色をつける

キャンドルをつくる時に、クレヨンと一緒に溶かせば、キャンドル本体を色づきにすることができます。何色も重ねてレイヤーを作ってもきれいです。

クレヨンの代わりに精油を入れればアロマキャンドルにも。

キャンドルを灯す

● 点火

キャンドルを灯すときは、灯芯を5mmくらいに切って火をつけます。キャンドルホルダーや平らな皿の上に置き、倒れたり、ミツロウが流れてもよいようにします。周囲に燃えやすい物を置かないでください。



水に浮かべてフローティングキャンドル

● 消火

吹き消さず、溶けたミツロウに浸して消すといやな匂いがしません。

△注意

・下水に流さない

ミツロウを下水に流さないでください。固まって詰まる恐れがあります。ミツロウは土に還る素材です。

・手に付着した場合

ミツロウはハンドクリームにも使われる素材です。手に付着するとべとべとしますが、やがてしっとりします。お急ぎの時は、お湯で洗ってください。器具やテーブルについたミツロウは熱めのお湯でふき取ります。